



森林ふれあい情報

国民の森林・国有林

平成22年10月

第16号

中部森林管理局木曽森林環境保全ふれあいセンター

〒399-0001 長野県木曽郡木曽町福島5471-1

TEL:0264(22)2122 FAX:0264(21)3151

E-mail:kiso-fureai@rinya.maff.go.jp

猛暑の影響かクマの出没

前回のふれあい情報で紹介しましたが、当ふれあいセンターの活動拠点の城山国有林にクマが出没して、林道脇のサクラのさくらんぼを目当てに枝が折られる事件がありました。

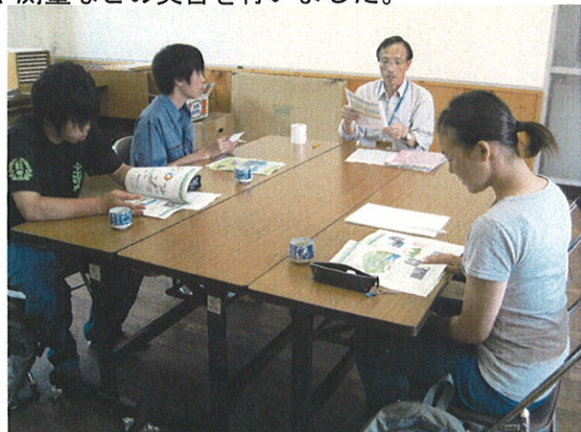
生物の多様性から見れば豊になって来ていると思いますが、長野県の準絶滅危惧種に指定されているササユリの球根がイノシシの食害を受けるなど、自然維持のむずかしさを痛感しました。



クマ棚と言われる折られたサクラの枝

地元高校生の就業体験受け入れ

長野県教育委員会では、教育活動の一環として生徒が企業などで就業体験をする「ずく出せ修行」というプログラムを実施しています。「ずく」とは長野県の方言で「やる気」と言うような意味ですが、木曽青峰高校生3名を受け入れ国有林の仕事内容や測量などの実習を行いました。



所長による仕事の説明



藤田指導官によるコンパス測量の説明

教職員を対象とした 森林・林業体験学習研修会

中部森林管理局では長野県と共催で、児童・生徒の指導者である小中学校の教職員を対象に森林環境教育の手法について研修会を実施しており、県内4ヶ所の国有林で実施されました。

ふれあいセンターでは上伊那地域、木曽地域を担当しました。8月3日は上伊那地域の先生を対象に木曽谷から伊那谷へ尾根を越えて用水を引いている「木曽山用水」を見学し、翌日は木曽地域の先生を対象に黒沢御岳国有林の樹齢300年と言われるヒノキ林の見学をしました。



上伊那地域

水利組合の古老から、通水の苦労話を聞く



木曽地域

樹齢三百年の木曽ヒノキ純林に一同驚嘆



暑さに負けずに間伐体験

木曽川上・下流の交流

木曽川上・下流住民が森林整備を通じて交流を深める「木曽川・森づくり in 赤沢」が9月11日に赤沢自然休養林とその周辺の森林で行われました。

上下流から参加した30名が6班に分かれ、3班ずつ交代で森林整備（間伐）と森林散策を楽しみました。9月の半ばとは言え夏の猛暑が続き、汗を拭きながらの作業となりました。

10月には中部局管内の名古屋市において、生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）が開かれることから、森林が生物多様性の保全等に重要な役割を果たしていることを啓発する目的で、パートナーシップ事業に登録して会議を支援しました。



ベテランインストラクターによる森林散策



計画部長によるCOP10の紹介

ボランティアによる

木曽駒ヶ岳の植生復元事業

長野県中央部に位置する木曽山脈は通称中央アルプスと呼ばれ、木曽駒ヶ岳（2,956）を主峰として宝剣岳や空木岳など2,900メートル級の山が連なっています。

木曽駒ヶ岳周辺では、熟年者のトレッキングブームと、ロープウェイで気軽に高山帯を楽しめることもあって、近年入り込み者の増加による踏み荒らしや、降雨、降雪あるいは強風による砂礫の移動等が高山植物の荒廃に拍車をかけています。

平成16年から平成21年度にかけて植生荒廃の著しい登山道周辺を中心とする区域において、高山植物の現況と、荒廃した植生の復元を図るため、関係する行政機関、学識経験者、山岳会、自然保護団体、NP

〇等を含めた幅広い分野の専門家による検討会を開催し、植生の回復・維持管理のための具体的な方策等に関する検討を行って来ました。

その結果に基づき、9月14日、今年度事業として200平方メートルのヤシマット敷設作業を実施しました。



ヤシマットを背負い

千畳敷カールに登るボランティア



マットと地面に隙間が

出来ないようステープルで固定

長野県シルバー人材センター連合会の シニアワークプログラム支援

長野県シルバー人材センター連合会では、60歳代前半を対象に、シニアワークプログラム事業として森林保全管理講習を実施しています。

森林保全事業に携わる団体に協力依頼してプログラムを実施するもので、ふれあいセンターでは間伐の実習と安全管理について講義を行いました。

林業関係に従事したことがない人ばかりですが、

庭木の剪定や、家庭菜園などでは刃物を使う機会が多く砥石の使用や高所作業での注意事項など熱心に聞いていました。



60歳代とは思えないパワー



家庭から持参の刃物研ぎ